

担当センター名		関東地方ESD活動支援センター
プロジェクトのテーマ		ESD for 2030学び合いプロジェクト～ 「自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ」
プロジェクト期間		令和3年7月～令和4年1月（全4回+実践）
達成目標		○狙い：SDGsが自らの生活と密接な関係にあることを知り・その関係性を学ぶ ○達成目標：自然学校での学びを日常生活での実践に結びつけるプログラムの作成と普及
コアメンバー(団体・個人)		・筑波大学附属坂戸高校：建元喜寿教諭 （地域ESD拠点・関東センター運営委員） ・チャウス自然体験学校 加藤正幸理事長（地域ESD拠点） ・NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 鬼沢良子 理事長 （地域ESD拠点・関東センター運営委員）
実施内容	勉強会① オンライン	○キックオフ（7/26（月）18:00～19:30@オンライン） 参加者に対し事業の説明と、生ごみ削減の意義&自然学校の取組紹介などのインプットを行った。 ・NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット：鬼沢良子氏 ・NPO法人 チャウス：加藤正幸氏
	勉強会② オンライン	○勉強会（8/9（祝）18:00～19:30@オンライン） コンポストの役割&有機肥料による良い野菜づくりの講座を実施し、インプットを行った。 ・NPO法人循環生活研究所 理事：木村真知子氏 ・農業法人菌ちゃんふぁーむ 社長：吉田俊道氏 ※プロジェクトメンバーは次回までにプログラム案を提出
	勉強会③ オンライン	○研究会（10/2（土）13:30～16:00@オンライン） 参加者から提出されたプログラム案を各自発表し、実践活動で実施するプログラムを検討
	実践活動 対面	○実践（11/21@群馬県桐生市） チャウス自然体験学校が運営する畑にて、小学校低学年親子4組を対象にサツマイモの収穫体験・様々なコンポストの紹介と分解状況の観察、観察用ペットボトル・コンポストづくりなどのプログラムを実施。このプロジェクトに参加している筑波大学附属坂戸高校の生徒が、今回の実践のために制作した紙芝居を上演。全体参加者30名（スタッフ含む）
	勉強会④ オンライン	○リフレクション（1/13（木）18:00～19:30@オンライン） 実践事業に関して当日の様子を5分程度の動画で紹介し、プログラムの改善案や今後の展開を話し合った。全5回の実施内容を振り返り、コアメンバー、プロジェクト参加者からのフィードバック、各自が今後やっていきたいことを共有した。
	目標達成度	・参加者の案を元に実践プログラムの開発ができた ・地域ESD拠点間の学び合い、世代を超えた学び合いの機会を提供できた

<p>成果</p>	<p>プロジェクト関係者(コアメンバー、その他の参加者、実践活動の対象者)の変容</p>	<p>(全5回終了後のアンケート抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義などの理論・理屈を並べるよりも、実体験をすることで、より学びが深まり、自ら考え行動する「自分ごと化」されているのだと改めて実感しました。 ・コンポストについて学んでいて活動の一環として参加したのですが、プログラムの内容一つ一つがとても楽しく、またしっかり内容も学ぶことが出来たので良かったです。 ・幅広い年代の人と関わることができて、今まで持っていた知識を生かす機会があったり、外部の方から新しい情報を取り入れることができたので、刺激されるものが増えてやりたいことが増えました。
<p>今後の課題</p>		<p>次年度以降は未定だが、今回、ESDセンターとしても大きな学びになったので、今回のテーマは、何らかの形で発展させていきたい。自然学校向けのプログラムとして普及させることを想定していたが、自治体の「食品ロス・生ごみを削減」向けのプログラムにすることの方が、パッケージ化やプログラムのボリューム的にも適切という意見もあった。</p>